

イーハトーブシアター 公演企画書



# Ihatov Theater

企画制作

一般社団法人わらび座 株式会社ヘラルボニー

# イーハトーブシアターとは

## わらび座とヘラルボニーによる

## 境界を超えた新しいミュージカル。

イーハトーブとは、宮沢賢治の描いた「すべての命が平等で繋がっている世界」。

「人の生きる糧になる芸術」を目指すわらび座と、

「80億人の異彩がありのままに生きる社会の実現」を目指すヘラルボニーがタッグを組み、

境界を超える新たな舞台「イーハトーブシアター」を皆様にお届けします。

### イーハトーブシアターが超える3つの境界

#### 文化的境界

テクノロジーによる没入体験

これまで劇場へ足を運んだことのない人々、芸術鑑賞の経験が少ない人々にも楽しんでもらえるよう、既存の観劇マナーに縛られず、テクノロジーを通じて鑑賞者同士の存在をよりポジティブに感じながら楽しめる仕掛けをつくります。

#### 物理的境界

アクセシビリティの充実

今でも「聞こえないから」「見えないから」という理由で劇場に足を運ぶことを諦めている人が多くいらっしゃいます。そのような先入観をなくす架け橋として、我々はアクセシビリティを充実させます。

#### 経済的境界

子どもたちへ舞台を届ける協賛システム

経済的格差は文化的格差を生み、その文化的格差が更なる経済的な格差を生む可能性があると言われています。個人・企業・行政など多様な支援によるサポートシステムの形成により、生まれた環境、親の嗜好、経済力などに関わらず、あらゆる子どもたちが文化を享受することができる機会を生み出します。

# 団体概要

## わらび座

日本の民俗芸能とミュージカルを究める、  
秋田を拠点に活動する創立74年の劇団です

### 作品の特徴

わらび座の芸術的使命は、人間の尊厳、いのちの美しさを描き、人々の心の糧、生きる力となる舞台を創造することです。最大の特徴は、70年以上にわたり秋田を拠点に日本の民俗芸能を研鑽し、舞台表現へ再創造している点です。その表現手法は多彩で、ミュージカル、歌舞集、舞踊劇など多岐にわたります。2023年には客席1つ1つに太鼓や提灯を設置し、観客が参加して楽しめるノンバーバルステージ「祭シアター」を初演し、言葉や年齢のボーダーを超えて熱狂できる、新たな舞台様式を生み出しました。



### 公演実績

現在4グループで、年間約800回の公演を全国で行っています。これまでアメリカ、ヨーロッパ、アジア、ブラジルなど16カ国の海外公演の実績があります。手塚治虫作品（「火の鳥」「アトム」「ブッダ」「ジャングル大帝レオ」）やスタジオジブリ作品初のミュージカル化（「おもひでぽろぽろ」）などの日本を代表するコンテンツの他、歴史や地域文化を掘り起こすオリジナルミュージカルを数多く手掛けてきました。2023年には全国の企業の寄付により、祭シアター「HANA」の上演が実現するなど（主催：秋田県・企業版ふるさと納税活用）、官民一体となった事業も数多く行っています。



異彩作家とともに、新しい文化をつくる  
アートエージェンシーです

## ヘラルボニー

### 設立のきっかけ

ヘラルボニーは、両代表に4つ上の兄がいたことから誕生しました。兄の翔太には、自閉症という先天性の障害があります。兄はよく「可哀想」と表現されることがありました。彼はもちろん、笑います、悲しみます、怒ります、そして涙を流します。同じ感情を抱いているにも関わらず、なぜ「可哀想」なのだろう。私たちは幼い頃からの疑問を胸に、障害のある方々に関わる仕事がしたいと思い、生きてきました。

「ヘラルボニー」という聞き覚えのない単語は、兄・翔太さんが7歳の頃自由帳に記した言葉です。翔太さんにとっては、耳心地がよかったのか、字面が好きだったのか、魅力を感じる何かをきっと、そこに見出していたと思うのです。ヘラルボニーという社名には、一見意味がないとされるものを「価値あるもの」として魅せていきたいという思いが込められています。

### 企業としての挑戦

株式会社ヘラルボニーは、「異彩を、放て。」をミッションに掲げ、異彩作家とともに、新しい文化をつくる企業です。国内外の主に知的障害のある作家の描く2,000点以上のアートデータのライセンスを管理し、さまざまなビジネスへ展開しています。支援ではなく対等なビジネスパートナーとして、作家の意思を尊重しながらプロジェクトを進行し、正当なロイヤリティを支払う仕組みを構築。さまざまな形で「異彩」を社会に送り届けることで、「障害」のイメージを変え、80億人の異彩がりのままに生きる社会の実現を目指しています。



# シリーズのキーワード

## イーハトーブ [Ihatov]

岩手出身の作家、宮沢賢治の童話世界「イーハトーブ」。本シリーズではイーハトーブを現代に蘇らせ、新たなストーリーを展開します。

## 賢治とゆかりのあるわらび座・ヘラルボニー

わらび座は2020年、半世紀以上にわたる東北の文化振興や地域づくりに大きく貢献してきた功績を評価され、賢治の精神に基づく実践活動に贈られる、イーハトーブ賞を授賞しました。これまでにわらび座は「銀河鉄道の夜」「セロ弾きのゴーシュ」「どんぐりと山猫」「風の又三郎」を舞台化し、2019年までの16年間に、合計1805回の上演を重ねました。



ヘラルボニーの原点は、宮沢賢治の生まれた岩手県花巻市にあります。2015年に共同代表の松田崇弥が花巻市のるんびにい美術館を訪ね、飾られる知的障害のある人たちのアートに感銘をうけたことから、ヘラルボニーの前身「MUKU」が誕生しました。るんびにい美術館の作家のアートは今でもヘラルボニーの象徴的なアイコンとなっています。





ここは、夢の国・イーハトーブの世界。

本当の幸いを見つける旅へ——

## ものがたり

普通の学校生活をおくる主人公。

気づくと現実ではありえないことがあふれるイーハトーブの世界を旅することに。

ここでは、個性的な生き物や植物が話し出す！

空を飛んだり、水底を歩いたり、森の木々が歌を歌い、鹿が踊りだす！

不思議でめちゃくちゃなことばかり起こるけれど、

なんだか昔から知っているような気もするイーハトーブの住人たち。

不思議があふれるワンダーランドに心躍らせる主人公。

しかし楽しいだけではなく、様々なピンチや、悲しい別れも……。

主人公の「普通」が通用しない世界。

様々な試練を乗り越えた旅路の果てに、見つけた本当の幸いとは——

※ストーリーは制作段階のため、変更する可能性があります。

# 創作スタッフ紹介

---

## ミュージカルの一流スタッフと 期待の若手クリエイターが集結！

ミュージカルの金字塔『レ・ミゼラブル』や舞台『千と千尋の神隠し』を手掛けたジョン・ケアード氏など、世界の一流スタッフと共にミュージカルを制作してきた、鈴木ひがし氏(東宝)のもとに若手クリエイターが集結。

脚本を鈴木氏と共に手掛けるのは徳野有美氏。NHK 総合「となりのシムラ」でのコントの脚本、Eテレ子どもむけバラエティ番組などで多くの構成作家の実績をつみ、2022 年ニッセイファミリーミュージカル・NHKみんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」で鈴木氏と初タッグを組みミュージカルデビュー、大好評を得ました。

音楽は東宝、ホリプロ、宝塚歌劇団等数多くのミュージカル作品の音楽監督、作曲、編曲、指揮を手がけている竹内聡氏が担当。美術には 2022 年日本舞台美術家協会伊藤熹朔記念賞新人賞を受賞した期待の若手美術家、平山正太郎氏を迎え、ヘラルボニーの異彩の作家のアートと舞台美術の融合に挑みます。民俗芸能構成には、わらび劇場芸術監督の栗城宏が加わり、わらび座の和楽器や民俗芸能を舞台に持ち込んでいきます。

若い期待のスタッフによる、日本オリジナルミュージカルの誕生へご期待ください。

## 脚本・演出 鈴木ひがし(すずき ひがし)

東京都出身。日本大学芸術学部文芸学科卒業。演出家。

『ももクロ一座 特別公演』(明治座)、『リトル・ゾンビガール』(日生劇場)、とうきょう総文2022総合開会式オリジナルミュージカル『6時間目が、国語。』(東京フォーラムA)、「ジュリアおたあ」(わらび座)など、数多くの演出を手がけている。演出補・演出助手としても、栗山民也、永井愛、イリーナ・ブルック、マイケル・アーデン、など国内外の多くの演出家と仕事をしている。特に2007年から2013年までの『レ・ミゼラブル』(オリジナル演出版)ではジョン・ケアードから託されて日本人演出代行を務めた。新演出版でも引き続き演出助手として参加している。東宝株式会社演劇部演出部所属。



## 脚本 徳野有美(とくの ゆみ)

千葉県浦安市出身。日本大学芸術学部放送学科卒業。大学在学中にテレビ番組の構成作家として活動を開始し、その後脚本家、小説家としても活動を広げつつある。脚本を手掛けた作品は、NHKみんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」、NHK総合「となりのシムラ」、Eテレ「みたてるふおーぜ」「デザインあ」「ごちそうDJ」など多数。構成作家としては、テレビ東京系列「ポケモンの家あつまる?」「ポケモンとどこいく!？」など、子ども向けのバラエティ番組を中心に多数の番組を担当。またNHK出版より、小説「リトル・ゾンビガール」を上梓。チョウやナナフシなどの昆虫といっしょに暮らすことと、野鳥を観察することが好き。



## 音楽 竹内聡(たけうち さとる)

東京音楽大学作曲科卒業、同大学大学院修士課程作曲研究領域修了。武生国際音楽祭に招待作曲家として参加し、第5回武生国際作曲賞を受賞する。東宝、ホリプロ、宝塚歌劇団等のミュージカル作品の音楽監督、作曲、編曲、指揮を手がけている。近年ではミュージカル『シスター・アクト』やコンサート『ハイキュー』等の指揮を務め、『ローマの休日』『メリリー・ウィー・ロール・アロング』などの音楽監督を担当した。指揮者としても活動の場を広げており『天国と地獄』『こうもり』『仮面舞踏会』『ヘンゼルとグレーテル』『コジ・ファン・トゥッテ』『魔笛』『フィガロの結婚』『愛の妙薬』『奥様女中』『スザンナの秘密』など、主にオペラやオペレッタ、またモーツァルトの『レクイエム』、プッチーニの『グロリア・ミサ』などの合唱作品を多数指揮している。洗足学園音楽大学、同大学院講師。



## 美術 平山正太郎(ひらやま しょうたろう)

1990年長崎県出身。東京大学在学中にオープンデスクとしてセンターラインアソシエイツで研修。2012年より正式に所属。松井るみ氏に師事し、ストレートプレイ・ミュージカル・オペラのみならず、コンサート・イベントなど多岐にわたるセットデザインに美術アシスタントとして携わる。アシスタントと並行して、自身も舞台美術家として活動。2022年日本舞台美術家協会 伊藤薫朔記念賞新人賞を受賞。



## 民俗芸能構成 栗城宏(くりき ひろし)

福島県喜多方市出身。北海道大学理学部卒。1986年劇団わらび座に入座。8年間役者として舞台上で活動した後、劇団の文芸班に所属し、わらび座内外の多くの作・演出を手がける。わらび座作品では日本の有数の演出家(中村喙夫、栗山民也、ジェームス三木、大関弘政)に師事。2007年文化庁新進芸術家海外留学研修で、ニューヨーク、アッシュランドにて学ぶ。2014年、「第29回国民文化祭・あきた2014」の開会式・オープニングフェスティバルの脚本演出を手がける。同年、演劇部門で秋田県芸術選奨を受賞。



# 本公演の特徴

## ヘラルボニーのアーティストを盛り込んだ舞台美術

この度の公演では障害の有無、性別、年齢、住む場所等を問わず「誰もが楽しめる」舞台の創造を目指し、ヘラルボニーの創業の地である岩手にて思想の源流ともなる宮沢賢治の世界を彩るアートを展開していきます。「虔十公園林」に代表されるように賢治も障害の有無問わず互いを尊重し合える世界を志したこともあり、岩手だからこそその世界を表現できるようにアートをキュレーションいたします。(ヘラルボニーより)



## 公演アドバイザー：板垣崇志（るんびにい美術館館長）

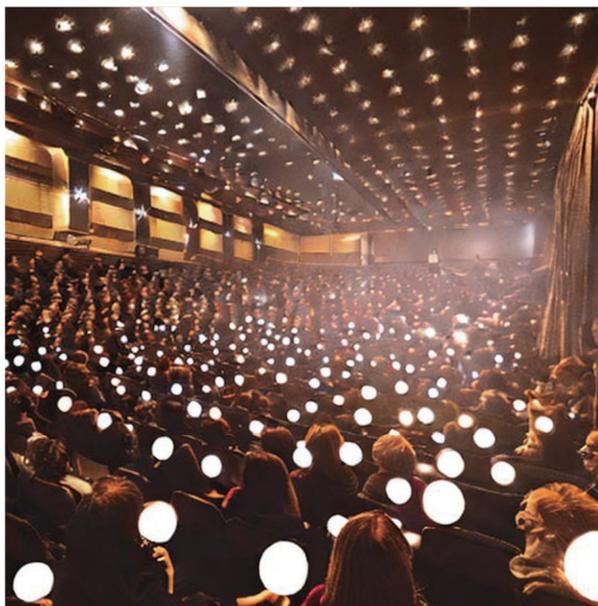
1971年岩手県花巻市生まれ。大学での脳機能の研究、銅版画への転向を経て、1998年から障害福祉領域での美術活動に関わり始める。るんびにい美術館設立計画に携わり、2007年の開館と共に同館アートディレクター。2020年「しゃかいのくすり研究所」を設立、同代表。



## テクノロジー × アートの舞台演出

イーハトーブシアターに客席と舞台のボーダーはありません。客席はデジタルアートによりアート空間に変容します。オノマトペや音楽に合わせて生き物のように色は変化し、客席はアートの一部となります。観客は他者の存在によって生み出される美しく楽しい仕掛けに、無意識に他者や自らの存在をポジティブに感じます。今まで大切だと感じていなかったことが、とても大切な意味があったのだと知ることになります。客席空間全体で味わう、境界のない没入型の観劇体験を目指します。

## 客席空間イメージ



# 本公演の特徴

## 民俗芸能の魅力を活かす

わらび座はミュージカルの表現力により、民謡や民俗芸能にドラマチックな要素を加え、シアトリカル(演劇的)に表現することができます。何百年にもわたって伝承される民俗芸能の普遍的な魅力を活かし、イーハトーブの世界の動物たちの命の鼓動や自然界の美しさ、たくましさ、不思議さを表現します。祭りや民俗芸能は、祝祭、祈り、鎮魂、技術の伝承、協働作業のための労働歌など、人々の生活の中で、厳しい自然や、無常の世を生き抜くために、歌い、踊られてきました。

宮沢賢治もまた、民俗芸能に魅了された1人です。「鹿踊りのはじまり」では鹿たちが円となって踊る様子に見とれ、自分も鹿になった気分になって飛び出してしまう人間の様子を、詩歌「原体剣舞連」(詩集『春と修羅』に収録)では子どもたちの踊りから得た大きな感動を伝えています。

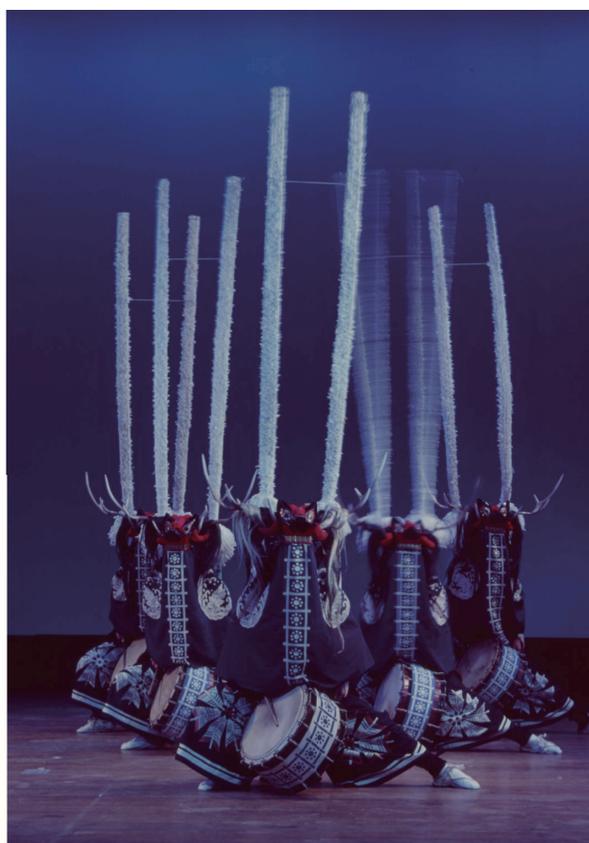
## 賢治の世界で踊り出す、個性あふれる生き物たち

※写真はわらび座の過去の舞台より参照

虎舞 (三陸海岸)



鹿踊り (花巻市)



獅子踊り (遠野市)



## あらゆるボーダーを超えるアクセシビリティ

「アクセシビリティ」と聞くと、手話通訳や音声ガイドを想像される方が多いかもしれません。しかし、芸術鑑賞においては劇場に辿り着くまでの「物理的・経済的なアクセスのしにくさ」や、鑑賞ルールの徹底により生まれる「観る人の感動へのアクセスのしにくさ」など、様々なボーダーによって「アクセスのしにくさ」が生まれています。私たちは、全ての人々がボーダーなく楽しめる舞台の創出に向け、あらゆるアクセシビリティの充実を目指します。

### ○鑑賞サポート事例

8都市の拠点公演では以下のサービスを検討しています。

ご希望の取り組みがございましたらお気軽にお問合せください。

監修：株式会社 precog

バリアフリー字幕(タブレット貸出) | 事前解説 | 筆談ボード | ささやき支援 | 劇場内の案内表示  
鑑賞マナーハードル低めの回 | 車椅子席 | 補助犬利用 | 優先入場 | ルート案内 | リラックスエリアの設置

#### ・筆談ボード

会場の受付に筆談ボードをご用意します。



#### ・バリアフリー字幕(タブレット貸出)

手元で字幕をご覧いただけます。



#### ・車椅子席

車椅子専用のスペースをご用意します。



#### ・リラックスエリアの設置

子どもたちや障害のある方の心を落ち着けるスペースを設置します。



#### ・ルート案内

最寄駅から会場までの段差の少ないルート、視覚障害者向けのルートをウェブサイトに掲載します。



#### ・優先入場

小さなお子さまを連れてくる方、お手伝いが必要な方などは、通常の開場時間よりも前にご入場いただけます。



# 公演概要

公演様式:ミュージカル

上演時間:100分(途中休憩10分含む)

上演可能会場:ホール、文化会館

ツアー期間:2025年7月~2027年2月

## プロジェクト概要

年間 90 公演、計 65,000 人鑑賞を予定

### 拠点公演

東京、大阪、札幌、青森、盛岡、秋田、仙台、郡山

### 巡回公演

学校の芸術鑑賞会を含めて、北海道から九州まで全国ツアー上演します。

2025/11 札幌公演  
カナモトホール(予定)

2025/9/3 青森公演  
リンクモア平安閣市民ホール

2025/8/9~10 秋田公演  
あきた芸術劇場ミルハス

2025/12 大阪公演  
吹田市文化会館メシアター(予定)

2025/8/30~31 盛岡公演  
盛岡市民文化ホール

2025/9/27,28 仙台公演  
仙台電力ホール

2025/7/23 郡山公演  
けんしん郡山文化センター

2025/10/18~26 東京公演  
こくみん共済 coop ホール/スペース・ゼロ



### 拠点公演会場で行われるヘラルボニーとの共創事業

契約作家による作品ゆかりのアート展示 | ご招待の子どもたちへオリジナルの記念グッズ贈呈  
スタッフによるアート創作ワークショップの開催 | 来場者に優しい案内表示のデザイン

### 【お問合せ】

一般社団法人わらび座 公演事業部

〒014-1113

秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田430

TEL 0187-44-3332

FAX 0187-44-3318

MAIL o-kita@warabi.or.jp